

■事前アンケート調査結果（座談会前）

【小規模校のメリット（長所）】

（城ヶ丘中）

- 人任せにならず、責任感が芽生える。
- 個別対応の充実(各学年・特別支援)
- 先生の目が行き届く
- 学習面、生活面と子どもの変化に気づいて貰いやすい。また、先生方を身近に感じ信頼関係を築きやすいと思う。仲間との協力場面も多いため、取り組みの中で役割り分担や経験が出来る。
- 子供達の自主性、少ないからこそ1人ひとりに役割があって人任せにしない
- 全学年交流があり、顔見知り
- 保護者も少ないため、みんなでやろうという協力体制がある
- 少ないなりに試行錯誤しながら活動している(臨機応変に対応出来る、新しい発想につながる)
- 1人ひとりが主役、大人数に埋もれない
- 教室が広々と利用出来る

（大城小）

- 人前に立って発表をする機会が増える。
- 全学年との交流があることで、それぞれの学年の価値観をすり合わせて考える機会が増える。
- 各々に合わせた学習
- 生徒一人一人の事をしっかり見てもらえる(学習面等)
- 目が行き届き埋もれる事がない。
- 個別対応の充実
- 全生徒で1クラスぐらいの規模なので、何事も学校単位で取り組み学年の壁が低い。
- 子供達の自主性、少ないからこそ1人ひとりに役割があって人任せにしない
- 先生方が児童一人一人と向き合ってくださり、丁寧に対応していただける。児童が責任や使命感などを持つて、学校生活や行事に取り組むことができ、活躍の場が多くある。

- 全学年交流があり、顔見知り
- 保護者も少ないため、みんなでやろうという協力体制がある
- 少ないなりに試行錯誤しながら活動している(臨機応変に対応出来る、新しい発想につながる)
- 1人ひとりが主役、大人数に埋もれない
- 昔ながらの伝統行事が引き継がれている
- 教室が広々と利用出来る
- 生徒数が少ないため、一人ひとりの学習状況や意欲の変化を詳細に把握しやすく、個別最適化された指導が行いやすい。
- 教師が柔軟に複数教科を兼任する「マルチプレイヤー性」により、AI教育、プロジェクト型学習などの新しい取り組みを迅速に導入しやすい。
- 学校を「教育の実験室」として機能させ、AI活用学習や地域産業連携型探究学習といった先進的教育方法の導入効果を小さな単位で明確に可視化・検証できる。
- 地域産業（農業、観光、医療など）と連携した探究学習やキャリア教育が、進学や将来像の形成に直結しやすい。
- 生徒の親和性が高いICT・AI教育（作文支援、データ分析など）を導入することで、「離島からでも最先端教育を受けられる」環境を提供できる。
- 人数が少ないため、生徒一人ひとりの活動（生徒会、自治活動、地域行事）が学校全体に大きく影響を与え、リーダーシップや協働力の育成に直結する。
- 導入効果や学力・意欲の変化を個人単位で詳細に記録でき、そのデータを町全体の教育モデル構築や他校への展開に活用できる。
- 少人数での試行により、教育投資を最小限に抑えられ、失敗リスクを低減できる。効果を検証した上で町全体に展開するため、効率的な予算執行が可能となる。
- 「離島での教育実験」という希少性や実績を示すことで、国・県への補助金申請に有利となる。
- 「最先端の教育を実験するモデル校」という事実が町の強力な発信材料となり、教育に关心を持つ子育て世帯の移住促進や、地域ブランドの向上に繋がる。
- 教育行政だけでなく、福祉（高齢者との連携）、産業（地元産業とカリキュラムの接続）、防災（災害時の地域防災モデル）など、町政全般の施策との接

続拠点として機能できる。

●小規模中学校を「町の財政負担」ではなく、「教育投資の実証拠点（モデルケース校）」として再評価できる。

●殆どない

（内城小）

●子どもたちに目が届きやすい。

●学校全体が家族のような感じ。

●子どもたち1人1人に役割がある。

●保護者、児童、先生方との距離が近く、相談しやすい。1人1人に対しての指導ができる。

●上級生や下級生との交流が活発になる。

●一人一人の役割が大きく、責任感が育つ。

●担任だけでなく、学校全体が我が子と関わってくれる。

●保護者間の情報交換がしやすい。

【小規模校のデメリット（短所）】

（城ヶ丘中）

●公平な教育を受ける機会が失われる可能性がある。

●行事の時に役割が多い（体育大会の時に生徒は係があり、応援席はだれもいないなど）

●友達同級生が少ないと関係が悪くなった時に居づらい、マンネリ化

●部活動の充実度が低い

●仲間との協力や役割分担等での成長を感じる反面、子どもによっては負担を感じる場合も考えられる。また、個々への周囲からの注目も向きやすい。

（大城小）

●特定の保護者が幅を効かせる。

●体育などの集団で行う授業が十分にできない。

●いろんな考えを聞く機会が減って、考えの幅が広がりづらい。

●友達が少ない

●人間関係の範囲が狭くなる。

- スポーツの範囲が限定される。部活動等の選択肢が狭まる。
- 競争相手が居ない。競争心がない。
- 自分以外の他生徒の意見や考え方を吸収できる機会は大規模校より少なさそう
- メンバーが固定化しているので、勉強や運動など優劣まで固定化したイメージで子どもも保護者も教員も過ごす。
- 大人数で行う方が楽しく迫力が有るスポーツや演劇、音楽会などが出来ない。
- 専門教科の教員不足による学力の低下。
- 委員会やクラブ活動の選択肢の少なさによる体験機会の減少。
- 少数による多重活用による疲弊。
- 親の顔や名前まで分かるので、埋もれることができない。
- クラス替えがない。
- 行事の時に役割が多い
- 友達同級生が少ないと関係が悪くなった時に居づらい、マンネリ化
- 教育機会の多様性と専門性の低下
- 必修科目は維持できても、選択授業や課外活動の幅が狭まる。
- 理科の実験、音楽、美術など、専門性の高い教育の機会が奪われる可能性がある。
- 生徒数の急減により、スポーツ系・文化系を問わず活動の成立が難しくなり、子どもたちの体験の幅が狭まる。
- 教員数が減少し、複数教科を兼任することが増加し、教育の専門性が薄まる。これにより、生徒が進路を考えるうえで必要な発展的学びを受けにくくなる。
- 学校間で規模差が広がることで、「どこに住んでいるか」で子どもに与えられる教育機会が変わる（教育格差の拡大）。
- 児童生徒数が極端に少なくなることで、学校の「1人あたり教育コスト」が急激に上昇し、町の財政効率の面で負担となる。
- 比較的規模が大きかった中心部の学校までもが急激に縮小することで、町全体に「人口減少の現実」を突き付け、住民意識や心理的な支えに大きな影響を与える。
- 部活動などの活動基盤が崩れることにより、町の教育魅力が低下する。
- 学校の児童数減少は、町全体の出生数低下を反映したものであり、人口動態という「町の構造」そのものの縮図である（教育問題の枠に収まらない）。

●単に学校の統廃合を進めても、町全体の人口構造が変わらなければ、同じ問題が形を変えて再現される可能性が高い。

●運営

(内城小)

●活動内容が限定されたり、選択できることが限られる。

●部活など人数が足らないので試合が難しい。勉強面では、周りと大差無いため、向上心が低めと思う。

●クラスで友人とトラブルになった時、逃げ場がなくなる。

●複式学級。

●人間関係（親も子も）のトラブルがあった後も、狭いコミュニティーの中で関わっていかなければならぬ。

【和泊町立中学校のあり方について意見等】

(城ヶ丘中)

[統廃合に肯定的]

なし

[統廃合に否定的]

●学校の老朽化対策経費など財政が厳しくなり予算の確保が難しいから統廃合を検討するかのような資料になっていますが、予算や制度ありきなのでしょうか。

●建物は使わないと老朽化がさらに進むため、今ある施設が使えるまでまたは使い道が決まるまでは統廃合はしなくていいと思う。

[その他、部活等]

●現在、部活動についてはクラブチーム移行予定で、野球部は和泊中学校と一緒に活動している。平日は和中での活動のため送迎は保護者が行っている。

仕事をしているため他の保護者にお願いしている状態。毎日なので負担あり。

(以前は自転車で行っていたが、行くまでに時間がかかる、部活動始まる前に体力使う、危険等で保護者送迎になったと先輩保護者に聞いた)統合した場合は通学方法はどうなるのか？

- クラブチーム移行の話も現状どうなっているのか知りたい。
- 卒業生にとっては母校がなくなるという事で、実際に統廃合になった地域の方々や卒業生の反応はどうだったのか？
- 小規模各学校の伝統行事等はどうなるのか？
- 少子高齢化・財政難であれば、総合施設(アリーナ)を新たに作る必要性はなく、多額の借金を未来に残さず、その費用を少ない子供達の教育のため未来のために使って欲しい。(以前、建設費用貯蓄のために学校予算が削られている、授業での実験などの回数が減った、備品購入に時間がかかると聞いたことがある。実際に数年前体育館の照明は暗い状態が長くあった)
- 小規模校が嫌、合わない、学力のために、等の理由がある場合もあると思うのでまずは学校選択制にしたらしいと思う。

(大城小)

[統廃合に肯定的]

- 合併して学校の運営を進めていきましょう。町民に聞く必要性は少なく、町の財政と運営面で困らない様にして欲しい。やるなら早くやってどう運営するかを議論しましょう！
- 学校規模が縮小すると、必修科目は維持できても選択授業や課外活動の幅が狭まります。理科の実験や音楽、美術といった専門性の高い教育は縮小しやすく、子どもたちが「多様な学びに触れる機会」が奪われます。
- 和泊小学校や国頭小学校は、これまで部活動やクラブ活動の基盤を提供してきました。しかし生徒数が急減すると、スポーツ系・文化系を問わず、活動が成立しにくくなります。これは子どもたちの体験の幅を狭めると同時に、町の教育魅力を低下させます。
- 規模が小さくなると、教員数も減少し、複数教科を兼任することが増えます。これにより教育の専門性が薄まり、生徒が進路を考えるうえで必要な発展的学びを受けにくくなるという弊害が出ます。
- 和泊小学校は町内で最も児童数が多い学校であり、町の教育の中核を担ってきました。その和泊小学校が 207 名から 126 名へと一気に減少することは、「町の中心部でも人口減少が進行している」という明確なシグナルです。
- 国頭小学校についても同様で、従来は 60 名以上を維持していた学校が 30 名を切るというのは、地域の教育環境そのものが「小規模校化」していく過程を示

しています。これまで「周辺部の学校は減るが、中心部は安定している」という認識があったとすれば、それはもはや成り立たない状況になりつつあります。

◎学校ごとに規模差が広がることで、「どこに住んでいるか」で子どもに与えられる教育機会が変わってしまいます。これは教育の公平性という観点からも大きな課題です。

◎小規模校の維持には固定費がかかります。特に国頭小学校のように30人規模となれば、「1人あたり教育コスト」は急激に上昇します。町の財政効率という面からも、教育配置の見直しは避けられません。

◎町の中心部に人口が集中する一方で、周辺部の集落は急激に過疎化しています。この人口の偏在が、学校規模の不均衡を生み出しています。

◎厚生労働省の調査による2050年の和泊町や知名町の人口推移を見ました。和泊町4000人、知名町3000人程度で0-14才は両町ともに11%でした。

10年後、20年後のことを考えると、島内で1校に合併した方が良いのではないかと考えます。和泊町と知名町の町の合併も検討すべきではと考えます。

[統廃合に否定的]

◎なぜ城中校区で統廃合の話を進めるのですか？

◎「総合交流施設建設をさらに推進する会」では、当初、令和9年3月以降に検討を行うというスケジュールを立てていたはずです。その基準はどこへ行ったのでしょうか。

◎資料には記載がありませんが、海の横にある和泊中学校では津波発生時にとても不安が有ります。すでにあの場所は危険だと認識している場所に子供を集めて、避難の遅れなど何か問題が起きた場合誰が責任を取るのでしょうか。

城中だけを廃校にして「和泊中に通え」と言われても、校区住民の理解が得られるとは思えません。

◎和泊幼稚園のときのように、3年間通わせる予定で入園したのに、突然『再来年で閉園します。』と言います。保護者や子どもたちの声を無視して、行政が一方的に決めるのはやめてください。

◎建物は使わないと老朽化が進むため今ある施設が使えるまでまたは使い道が決まるまでは統廃合はしなくていいと思う。

[その他、部活等]

- 合併する、しないの 2 択以外で、一部合併など柔軟な学校運営ができている中学校(全国内で)がありますか？あればどんなふうにしているのか知りたいです。
- 統廃合は仕方ないと思うが、送迎バスや部活終わりの送迎などが問題であると思う。
- バスに遅刻した場合は、保護者が送らなければならず、もし和中に合併した場合をかんがえると遠くなるのでは？
- 城中の校舎をどう使うのか？
- 教員住宅の裏の買収した土地はどう使うのか？
- 教職員住宅横の畠の活用はどうするのか？
- 城中を廃校にした場合、町の支出がいくら浮いて、その分なにに使うのか？
- 城中校舎の前の芝生に遊具などを設置する事は出来ないか？
- 座談会は校区民だけの話で終わらないようサンサンテレビで中継して、教育委員会がどう考えているのか全町民に伝わるようにして下さい。9月24日の会議も、放送して欲しかった。
- 少子化は和泊単独の問題ではなく、知名町を含めた島全体の課題です。
1 クラス 15 名程度にし、小規模に近いクラス運営を行う事で多様性にも触れる学校生活が出来るのではないか？子ども園から高校までを一体的に考える“島全体の教育の在り方”を、早急に議論すべきです。
- 現在、部活動についてはクラブチーム移行予定で、上の子供は野球部で和泊中学校と一緒に活動している。平日は和中での活動のため送迎は保護者が行っている。仕事をしているため他の保護者にお願いしている状態。毎日なので負担あり。(以前は自転車で行っていたが、行くまでに時間がかかる、部活動始まる前に体力使う、危険等で保護者送迎になったと先輩保護者に聞いた)統合した場合は通学方法はどうなるのか？
- クラブチーム移行の話も現状どうなっているのか知りたい。
- 卒業生にとっては母校がなくなるという事で、実際に統廃合になった地域の方々や卒業生の反応はどうだったのか？(大城小は以前『準 PTA 制度』というものがあり、それが数年前に『もりあげ隊』に変わった時も地域の方々からたくさんの意見があった、校長先生や PTA 会長が各字を回って説明会を行っていた、大変そうだった)

- 小規模各学校の伝統行事等はどうなるのか？
- 少子高齢化・財政難であれば、総合施設(アリーナ)を新たに作る必要性はなく、多額の借金を未来に残さず、その費用を少ない子供達の教育のため未来のために使って欲しい。
(建設費用貯蓄のために予算が削られていたのか、数年前まで外の遊具が壊れたままの状態が続いていた。)
- 小規模校が嫌、合わない、学力のために、等の理由がある場合もあると思うのでまずは学校選択制にしたらいいと思う。
- 和泊町における小中学校の児童生徒数の推移を見ると、今後10年間で町全体の教育環境に大きな変化が訪れるることは明白です。特に注目すべきは、和泊小学校と国頭小学校という、これまで比較的規模が大きかった小学校が急激に縮小していく点です。令和7年度時点で和泊小学校は207名、国頭小学校は67名という規模を有しています。しかし、令和14年度にはそれぞれ126名、29名と大幅に減少し、和泊小学校は約4割の減少、国頭小学校は半減以下となる見込みです。この変化は単なる数値上の推移ではなく、町全体の人口動態や教育政策に直結する「重要な指標」と言えます。
- 住民にとって「和泊小や国頭小は比較的大きいから安心」という感覚は心理的な支えでした。しかし、その学校が急激に縮小していくことで、町全体に「人口減少の現実」を突き付ける効果を持ちます。これは政策的にも住民意識的にも大きなインパクトとなり、教育行政の枠を超えて町政全般に影響を与えるでしょう。
- 和泊小学校と国頭小学校の急減は、町全体の出生数の低下を直接反映したものです。教育の問題ではなく、人口動態そのものの縮図であり、「町の未来人口」を予測するうえでの極めて重要な指標となります。
- 教育政策は教育委員会が担いますが、根本にある課題は「町の構造」です。居住地政策や交通網整備、産業の分布と教育環境は本来一体で考えるべき課題です。
- 単に統廃合を進めても、町全体の人口構造が変わらなければ、同じ問題が形を変えて再現される可能性が高いのです。
- 短期(～5年)
教育機会の公平性を確保するため、ICT教育やリモート授業を強化する。
外部講師や地域資源を活用して学びの多様性を補う。

◎中期（5～10年）

学校配置の再設計を議論し、和泊小・国頭小を含めた全体の統合・複合化の可能性を検討する

教育と福祉・地域振興を一体化した複合施設としての学校のあり方を模索する

◎長期（10年以上）

人口政策と教育政策を統合し、「住む場所による教育格差」を是正するまちづくりを推進する移住・定住促進政策を教育の魅力と結びつけ、町全体の人口維持につなげる

◎和泊小学校と国頭小学校の児童数の急激な減少は、町全体の未来を映す「重要な指標」です。これは単なる教育課題ではなく、**人口構造・教育環境・財政効率・地域の将来像**を同時に示すものです。この現実を直視し、教育政策と人口政策を切り離さずに一体で考えることが、和泊町にとっての最大の課題です。和泊町が子どもたちに「限られた未来」ではなく「選べる未来」を保障するためには、学校の枠を超えて、まちづくり全体の再設計が求められています。

（内城小）

[統廃合に肯定的]

◎城中大城内城の小中合併案は、いいと思う。

[統廃合に否定的]

なし

[その他、部活等]

なし